

<功 績>

本研究グループは、平成 9 年度から文部省（現文部科学省）がモデル事業をスタートさせ、今日の我が国地域スポーツ振興の中核的な施策となっている「総合型地域スポーツクラブ（以下「総合型クラブ」という。）の育成」において、構想当初から、総合型クラブ関係者間のネットワークの基盤づくりや総合型クラブの創設、活動についての調査研究、情報提供等を通し、今日における総合型クラブの普及発展に資する顕著な功績をあげた。

本研究グループは、文部科学省中央教育審議会スポーツ・青少年分科会臨時委員や日本体育協会地域スポーツクラブ育成専門委員会副委員長でもある黒須充氏を代表として、研究者、総合型クラブ現場関係者等によって構成されている。

これまで同グループは、主に以下のような情報提供活動、調査研究に取り組み、その実績により、我が国における総合型クラブの普及と創設・活動支援に大きく寄与している。

（1）総合型クラブ中間支援組織の設立

全国の総合型クラブの設立と運営を支援する中間支援組織として、本研究グループのメンバーが中心となり、「日本にクラブライフを実現する」をミッションに掲げ、「クラブネッツ（理事長：黒須充氏）」を平成 10 年 5 月に組織し活動を始めた。総合型クラブ関係者がこの組織ミッションのもとに全国各地でネットワークを結成し、スポーツの文化的意義を高めるとともに、総合型クラブ構想の理念を広く社会全体で支援・協力してもらうことを目的に、ニュースレターの発行や各種セミナーの開催を通して、総合型クラブの支援活動を行った。平成 11 年には、「特定非営利活動法人」として認証を受け、平成 12 年には公式ホームページとメーリングリストを開設し、ネットワーク型組織として活動を進め、現在も総合型クラブ関係者の情報提供や情報交換の場として利用されるとともに、現場の実情を把握することを目的とした調査研究活動の基盤にもなっている。

また、平成 25 年には、「認定特定非営利活動法人」の申請を行うなど組織の充実を図っている。

（2）日本体育協会「指導者のためのスポーツジャーナル」での連載及び書籍化

日本体育協会が公認スポーツ指導者の情報誌として発行していた「指導者のためのスポーツジャーナル」において、平成 10 年 8 月から平成 14 年 3 月まで、「広げよう！総合型地域スポーツクラブの作り方」と題した連載の企画編集を本研究グループのメンバーが中心となって担当した。本連載では、総合型クラブの必要性和社会的役割、設立のあり方、設立後の運営方法等について、研究者や現場の実践者等様々な立場の総合型クラブ関係者が執筆を担当した。その内容は、地域住民の立場に立ち、単なる机上論を展開するのではなく、理論的及び実践的視点に基づいており、情報誌の読者から多くの反響を集めることとなった。なお、本連載は、平成

14年12月に「ジグソーパズルで考える総合型地域スポーツクラブ」として書籍化され、総合型クラブ設立を目指す地域住民やその支援を行う行政担当者等、全国の総合型クラブ関係者の必携書として愛読されるとともに、総合型クラブを学ぶ学生や研究者にも貴重な示唆を与え、参考文献として広く利用されている。

(3) 全国の総合型クラブ実態調査による各種データの収集

平成9年度から始まった文部省の「総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業」以降、全国各地に総合型クラブが設立されるようになった。設立された個々のクラブは地域の実情に即した運営を行い、規模、活動内容について、様々な事例が見られたが、どの地域でどのような活動が行われているかといった総合型クラブの具体的な情報を入手することは難しく、全国的な実態が把握されていなかった。そこで、全国の総合型クラブの育成状況やそれぞれの総合型クラブの設立目的、会員数、活動種目、今後の運営に係る課題などを調査し、平成14年3月に「My Town Club 総合型地域スポーツクラブ育成状況に関する調査報告書」として取りまとめ、公表した。その報告書には、各総合型クラブの組織情報だけでなく、実際のクラブ運営に携わる関係者からの意見収取を通じて、当時の総合型クラブの現状を踏まえ、さらなるクラブの発展に必要な課題を明らかにし、今後の総合型クラブ育成のポイントが提起されるなど、関係者にとって貴重な情報を提供することとなった。本調査は、文部省が平成14年7月から始め、以降毎年実施している総合型クラブ育成状況調査に先駆け、全国規模の調査として初めて実施され、その後、平成19年まで6回にわたり実施された。

(4) 総合型クラブ関連書籍の発刊

総合型クラブの中間支援組織であるクラブネッツでの活動により培った総合型クラブに関する情報や事例を取りまとめ、代表の黒須氏の編著として、平成19年から平成21年の3年間で、「総合型地域スポーツクラブの時代 第1巻～第3巻」を発刊した。第1巻「部活とクラブとの協働」、第2巻「行政とクラブとの協働」、第3巻「企業とクラブとの協働」と題し、地域に根差した活動を行う総合型クラブにおいて、地域社会の主な構成団体・組織である三者（部活・行政・企業）との協働について、現場の総合型クラブにおける実践的な事例をベースに理論編・実践編に取りまとめた。

また、総合型クラブのモデルはヨーロッパにある地域密着型のスポーツクラブにあると言われているが、そのスポーツクラブの先進国であるドイツにおいて、平成19年に実施されたドイツ国内のスポーツクラブを対象とした調査結果をまとめた報告書を代表の黒須氏の監訳により「ドイツに学ぶスポーツクラブの発展と社会公益性」として発刊した。本書では、ドイツにおけるスポーツクラブの社会的意義、役割等について、客観的なデータに基づき説明されており、我が国における総合型クラブの社会的意義や必要性に関するデータの重要性について指摘している。

上記の書籍は、総合型クラブ関係者に対し、新たな「気づき」を与えるものとなり、また、総合型クラブが発展していくために必要な事柄を関係者間で共通認識する情報となったことは言うまでもない。

以上のように、本研究グループがこれまで蓄積した多くの実績は、総合型クラブが地域において単にスポーツをする場としてだけではなく、地域住民にとって日常生活の一部となるような存在として認識されている状況、まさに「クラブライフ」の概念を普及させることに寄与してきた。

また、それらは文部科学省をはじめ、日本体育協会、都道府県及び市区町村行政、総合型クラブ関係者等総合型クラブに関わる施策及び事業計画・展開を担う多くの体育・スポーツ関係者及び研究者に対し、総合型クラブ育成・支援における共通言語としての理念を浸透させるとともに、地域スポーツ振興のあり方の実践面に大きな影響を与え、今日の総合型地域スポーツクラブの拡充、充実・発展（平成25年7月現在の全国の総合型クラブ数 3,493 クラブ〈創設準備中を含む〉）に貢献してきたことは、高く評価されるものがある。